

1

演 題

子どもの心の育ちと主体性を大切にする活動
～子どもの声からの保育者の気づき～

法人名	横浜市
施設名	横浜市東滝頭保育園

発表者名 (職名)	大久保 篤 (保育士)	住所	横浜市磯子区滝頭2-31-32		
発表者名 (職名)		TEL	045-753-2201	FAX	045-753-2247
発表者名 (職名)		メールアドレス	is-higashitaki@city.yokohama.jp		
		URL			
		定員	138名	職員数	70名

発表の概要・内容

1. 提案主旨

昨年度に担当した年長児の子どもたちとの一年間の活動を通じての保育者としての気づきや学びを実践報告します。

10月の「にこにこフェスティバル」という行事に向けて活動していく中で、子どもたちの言葉や保育者の気づき、その後の取組についてをまとめました。

2. 実践の内容

にこにこフェスティバルに向けた、取組の中で、多くの子どもたちは楽しんで参加していました。しかし、数名の子から思いもよらない言葉が出てきました。それは、「全然にこにこできない」というものでした。子どもも大人も“にこにこ”できるはずなのにこフェスに向けての活動でこのような言葉が聞かれ、職員間で「子どもの主体性の保育」について改めて考えるきっかけになりました。当日は、保護者の方々も一緒に参加していたこともあり、子どもたちも笑顔で参加していました。しかし、子どもたちの言葉を受けて、その後の行事に向けて担任や先輩保育者と話し合いを重ね、12月に行う「わくわくデー」の行事への活動を変えていこうとなりました。

本当に子どもたちが楽しめるものは、何なのか？子どもたちの声を丁寧に聞き、子どもたちの発信をもとに行事への話し合いを進めていく保育へ切り替えていきました。

子どもたちのアイディアは様々で、保育者が思いつくものをはるかに超えてきて、面白い意見ばかりです。「わくわくデーでは何やりたい？」「お父さんやお母さんと一緒に何がしたい？」との話し合いの中では「すごろくゲーム」や「クイズ」「じゃんけん列車」「スマブラ・マリカー・カービー」など・・・話し合いの結果、すごろくゲームに決まりました。子どもたちの思いが詰まったわくわくデーでは、のびのびと笑顔で参加する子どもたちの姿が多く見られ、行事後の姿も変わっていきました。

3. 実践から学んだこと(ぶどう組のみんながやりたいが叶えられる保育づくり)

子どもたちは、自分たちの「やりたい」と思うことが叶えられることから自分の思いを安心して表現し、自己発揮していくのだと感じました。

また、主体的な活動の中で探究的に夢中になっていき、次の遊びへとつながって行くと感じました。子どもの言葉を丁寧に拾っていくことの大切さを改めて感じました。

遊びを通して、様々なことを経験し、学びにつながっていると感じました。

ぶどう組のみんなのやりたいが叶えられる保育作り

「やりたい」 → 叶う → 安心 → 自己表現
主体的な姿 → 夢中 → 探究的な姿 → 次へ

メモ